



Positively Memorable Hailey Stutz

“Positively^(※) memorable” is another phrase my high school current events teacher liked to use. To be positively memorable is, of course, to be remembered for good reasons. I sometimes reflect on this sentiment and wonder, Am I being positively memorable? Am I touching other people’s lives? Am I important?

Thinking about it, we have all touched the lives of others somehow—left an impression, made an impact. Small things—words, gestures, a smile, silence—make big ripples. At points in my life, I stop to wonder, What am I leaving behind in the hearts of those who know me? Am I planting trees, or leaving ashes?

Ah, forgive me, I’m not trying to be philosophical. There is no correct way to leave footprints! You are, undoubtedly, worth knowing, caring about, and remembering. Live your life sincerely, with style, so that when people remember you positively, they remember you genuinely as well.

【ちょっと豆知識】宮地晶子

positive(ポジティブ)という言葉が生まれました。「ポジティブシンキング(positive thinking)で行こう」などと日本語でも使われていますね。「前向きにプラス思考で」という感じ。反対がnegative(ネガティブ) thinking 「マイナス思考」です。あなたはポジティブ? それともネガティブ?

いい意味で記憶に残る ヘイリー・ストウツ

「いい意味で忘れがたい」は、これも高校の時事問題の先生が好んで使っていた言葉です。これはもちろん、「ちゃんとした理由があって記憶される」ということ。時々わたしはこの言葉について考え、思うのです。私はそういう存在だろうか、と。私は人の人生に影響を与えているだろうか。私は大切な存在だろうか。

考えてみれば、私たちはだれもが他人に何かしら印象を残したり、影響を与えたり、その生き方に関わっています。言葉やしぐさ、ほほえみ、沈黙といった些細なことが大きな影響を与えます。人生の道すがら、立ち止まり、考えるのです。私は私を知る人々の心に何を残しているだろうか、と。木を植えているだろうか、それとも残しているのは灰だろうか、と。ごめんなさい。哲学的になろうというわけではありません。足跡を残すのに「正しい方法」なんてありません。あなたは、間違いなく、知り合って、大切に思い、記憶に留めるに値する人です。誠実に生きてください、粹に。そうすれば、誰かがあなたのことをいい意味で思い出すとき、心から思い出してもらえますでしょう。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第124回

数字は嘘をつかない

読んでいたことを忘れて同じ本を2度読んだ、ということありますか。私なんかしょっちゅうです。かくぜんとします。そればかりか、タイトルに引かれて買った本がおもしろくなくて中古書店に売ったのに、そのおもしろそうなタイトルにまた引かれて、自分が売った本を買ってきたこともあります。あほう過ぎですよ。

それにしても「売らんかな」という本のタイトルが多いと思いませんか。「英語が1週間でいとも簡単に話せるようになる本」「英語が1週間でホイホイ聴けるよう

になる本」「英語が1週間でイヤになるほどわかってしまおう本」「聞くだけ! 英語を話す力を身につける」など…。こと英会話に関しては、「食べたいだけ食べてやせる」的なダイエット本や、これさえやれば…的な健康本と同様に、幻想を売っているとしか思えません。私も流行の言葉で本を書いてみようかしらん。「ちょい足し、これでオッケー英会話」とか「安心してください。話せます」「私も話せたビックリ・ポン」。売れるかなあ。でもダメですね。私は嘘をつきたくないから英会話スクールの講師を辞めたのです。

現実には、やった分しかできるようにはならない。毎日何分積み上げるか、これは体に入ったカロリーと消費カロリーの差がものをいうダイエットと同じ。その点、中学生に教えるのは本当に楽しい。本当のことを伝えて、やればできる、と教えられる。英会話スクールと違って、週に3~4時間はできる。何回も何回も発音を直すことが出来る。あとは、家で「ちょい足し」。1日15分間でいいんだけどなあ。